

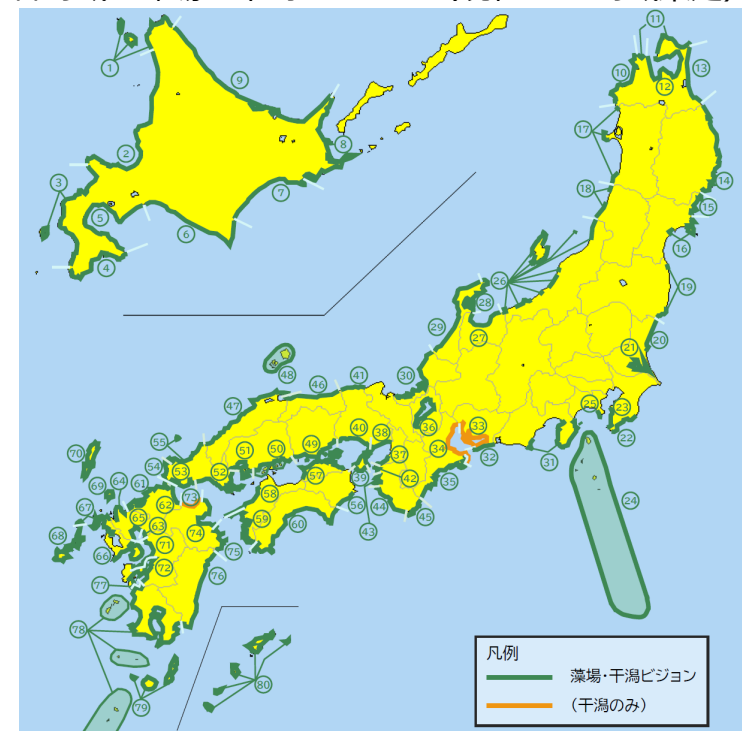
藻場・干潟ビジョンとは

- 豊かな生態系を育み、水産資源の増大に必要不可欠な**藻場・干潟の実効性のある効率的な保全・創造対策を推進するための基本的な考え方**をとりまとめたもの（平成28年1月公表）。
- 具体的には**次の4つの視点を重視**しつつ、各海域環境に的確に対応した形で、対策を実施していくことを提示。
 - ◇ 的確な衰退要因の把握 ◇ ハード・ソフトが一体となった広域的対策の実施
 - ◇ 新たな知見の積極的導入 ◇ 留意事項（地方自治体中心による実施体制構築、漁業者等の自主的管理、成果の発信等）
- 国のビジョンに基づき、**全国80の各海域で藻場・干潟ビジョンを策定**（令和5年12月時点）。

国の藻場・干潟ビジョン（平成28年1月公表）



各海域の藻場・干潟ビジョン（現在：80海域策定）



現状と課題

- 藻場・干潟は、近年、**二酸化炭素を吸収するブルーカーボン生態系として注目**。国が定める各種戦略・計画にもその役割と重要性が明記され、**一層の保全・創造を推進**することが必要。
- 一方、藻場・干潟の保全活動を担う漁業者等の**高齢化や担い手不足**が進む中で、**持続可能な保全体制の構築が不可欠**。また、これまで様々な知見が集積されてきたが、**さらなる工夫やあらゆる関係者との連携**による取組が必要。
- これらの状況を踏まえて、**藻場・干潟ビジョンの所要の見直し**を行い、各海域における持続可能な**保全体制の構築を促す**とともに、**カーボンニュートラルへの貢献を推進**。

主な見直しのポイント

- **現状認識** ▶ 地球温暖化対策としての藻場・干潟の重要性や藻場・干潟の保全の担い手不足等の現状認識を更新
- **藻場・干潟の機能** ▶ 藻場・干潟の**二酸化炭素の吸収源**としての機能の重要性を明記
- **新たな知見の導入** ▶ **海水温の上昇を踏まえた海藻種**の選定、広域的なモニタリング技術の導入
▶ 海藻種の選定にあたっては、**海洋環境の変化**を踏まえつつ、**地域の漁業実態や海域の生態系を考慮**
- **基本的考え方** ▶ **多様な主体による参画を促進**する取組（ボランティア、教育機関、民間企業等との連携）を推進
▶ **カーボンニュートラルへの貢献**を評価・発信、社会的な関心の高まりを捉えた**民間企業等との連携**（カーボンプレジット制度等の活用）
▶ 漁港・漁場の建設事業者による藻場・干潟保全への関与の期待
- **ビジョンの共有** ▶ 関係者の理解促進と多様な主体の参画を促すため、**策定したビジョンの公表・共有**を推進

豊かな生態系を育み、水産資源の増大に資する藻場・干潟の保全・創造に向け、**持続可能な体制を構築**するとともに、**カーボンニュートラルに貢献**

藻場・干潟ビジョンの構成 (赤字：主な見直し部分)

1. はじめに
2. 藻場・干潟の機能と現状
3. これまでの藻場・干潟の保全・創造対策
(1) ハード対策による藻場・干潟の整備
(2) ソフト対策による藻場・干潟の保全対策
(3) 技術開発と知見の普及
4. 実効性のある効率的な藻場・干潟の保全・創造に向けた基本的考え方
(1) 的確な衰退原因の把握
(2) ハード・ソフト施策が一体となった広域的対策の実施
(3) **新たな知見の積極的導入**
(4) **多様な主体による保全活動への参画とカーボンニュートラルへの貢献【追加】**
(5) **対策の実施に当たっての留意事項**
5. 各海域における対策の推進に当たって
(1) 各海域に関する情報収集と衰退要因及び海域環境の把握
(2) 各海域の藻場・干潟ビジョンの策定
 - ① 対策・実施体制の構築
 - ② 藻場・干潟の保全・創造対策を検討・実施する海域の範囲の設定
 - ③ 対策実施対象種の設定
 - ④ 長期的な目標の設定
 - ⑤ 藻場・干潟の保全・創造対策を実施する複数の実施候補地の選定
 - ⑥ 実施候補地ごとの対策規模・工法、保全手法、優先順位等の選定
 - ⑦ **多様な主体による保全活動への参画とカーボンニュートラルへの貢献【追加】**
- (3) ハード・ソフトが一体となった対策の実施
(4) モニタリング及び維持管理
(5) **ビジョンの共有及び取組成果の発信【追加】**
(6) 計画の見直し・改善
6. 最後に